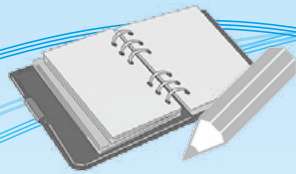


広報委員 放浪記



沢新田 建部神社のケヤキ

◆撮影場所 第四学区 建部神社境内

巨木の前に立つと人は圧倒され、そして、見る人の心を引き付ける不思議なエネルギー、パワーを感じます。第四学区には、何本かの巨木がありますが、沢新田の建部神社の境内には、ケヤキの大木群がうっそうとした森をつくっています。その内の、最も巨大である一本のケヤキは、庄内町の天然記念物の指定を受けている名木なのです。

樹齢400年とも500年ともいわれ、集落の創始以前から長い年月を生き抜いてきました。そして現在もなお、若々しく生い茂り、枝葉が重なり合って、境内を覆い、より一層の神秘さをかもし出しています。

古来より、巨木には神が宿るといわれており、このケヤキの木にも、神木としてしめ縄が張られています。これまでもそうであったように、これからもずっと、沢新田集落と、ここに住む人々を温かく見守っていくことでしょう。



●取材／広報委員 ㊦

みんなの集合場所

◆撮影場所 狩川地区 桑田集落

桑田の地蔵様は、小学校の登校班の集合場所でもあり、幼稚園のバス乗り場、はっぴーバス乗り場と人が集まる場所になっています。赤い帽子に赤い着物を身につけて、子どもたちを見守っています。

春と秋には地蔵講という集落の行事があり、昔は各家々で料理を作り子どもを中心にみんなでご飯だけ持ち寄り、ごちそうを食べているんな話をして楽しい時間を過ごしました。

今は地蔵様の供物は変わらず行っているのですが、昔と違い子どもの数も減少し、負担軽減のために地区ごとに集まるようになりました。時代の流れにより様変わりしていくのはしかたのないことですが、さみしいものがあります。



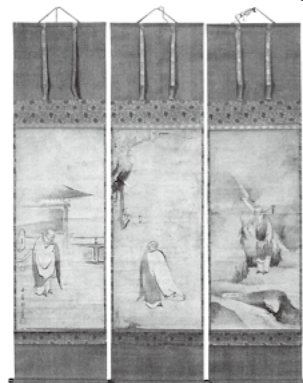
●取材／広報委員 ㊦

庄内町の文化財

紙本墨画疎山寿塔図(他二幅)
海北友松筆

狩野永徳、長谷川等伯と並び桃山画壇の雄と称される海北派の祖である海北友松(1533-1615)作の三幅で、左から疎山寿塔図、霊雲見桃図、五祖裁松図です。それぞれ縦100.0cm、横44.5cmあります。

友松は、浅井長政の家臣であった海北綱親の子で、幼時より東福寺に預けられ、武人の血筋と禅寺での修行により、個性豊かな画風を身につけました。狩野元信に学び、また梁楷(中国、南宋中期の画家)の減筆体(象徴的な表現をしている東洋画の技法の一つ)を模範とし、簡潔で気迫のこもった独特の画境を開拓しました。その力量は朝鮮にまで聞こえ、天下第一と称賛されたといわれています。本図は、背景に余白を残しながら、大きく捉えた人物を減筆法で描く友松特有の構図で、袋人物(衣装が風をはらみ人物が袋のように膨らんで見える独特の画法)と称されます。平成7年3月に町指定文化財に指定されました。



6/23 第1回タチあべ ~田んぼって何だな?!~



立谷沢地区の特設会場(田んぼ)で、稲の手植えや、泥んこ遊び、振舞いコーナー、はたらく乗り物撮影などをして、田んぼを満喫しました。

6/27 余目中学校が山形銀行に ペットボトルキャップを寄託



余目中学校の生徒会が、全校生徒に呼びかけて1年間かけて集めたペットボトルのキャップ約100kgを(株)山形銀行余目支店に寄託しました。

6/29 青空キッチン



町内外から20人が参加し、キャンプ用品を使った「ホットサンド」、「パスタ」作りなど、楽しみながらアウトドアについて学んでいました。

7/1 月山開山祭



月山神社で開山祭が執り行われました。霧が立ちこめる中でしたが、町の花である「クロユリ」など様々な高山植物を楽しみながら登頂しました。

7/4-5 立川小学校5年生が ふるさとロングウォーク



歩きながらふるさとの自然に親しんでもらおうと立川小学校が企画したもので、自然教室プログラムの一環として、清川、立谷沢地区を約12km歩きました。

7/7 風車村でブルーベリー 摘み取り体験



風車村の畑で育てている約150本もの木に実った食べ頃のブルーベリーが、約200人の来場者たちを楽しませていました。